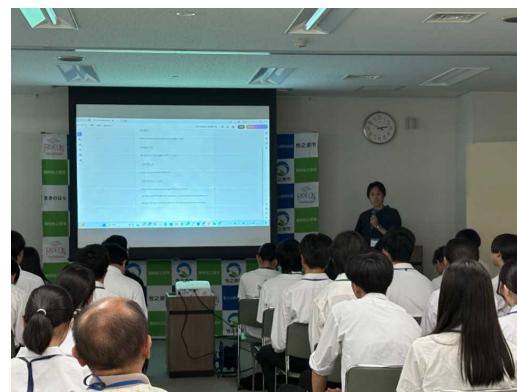


令和7年度

地域リーダー育成プロジェクト



牧之原市企画政策部地域振興課



目的

市内の中高生が他校や異なる学年の生徒、地域の大人と一緒に対話やファシリテーションを学ぶ機会とし、多様な考え方や生き方を知るとともに、自分自身の成長につなげたり、地域を支える人材を育てることを目的に実施。

企画・運営

- ・牧之原市役所
- ・市民ファシリテーター
- ・市内県立高校(榛原高校、相良高校)



概要

令和7年度の内容

回数：全5回（単発）

対象：中学生以上

- ・ 様々な分野で活躍する大人と対話、ファシリテーションのスキルアップ
- ・ 高校生運営スタッフメンバーと企画・運営
- ・ 1回のみの参加も可能だが、全体を通してレベルアップできるプログラム

第1回目

基礎①

語ring



第2回目

基礎②

トーク・フォークダンス



第3回目

応用①

発言力up！
自信が持てる発信力



第4回目

応用②

ファシリテーション研修



第5回目

実践

対話のスキルUP



第1回目

語ring～卒業生と語り合おう～

8月17日(日) 14:00～16:00 榛原庁舎 4階会議室

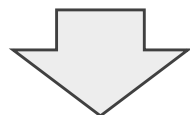


参加者55名

中学生	2名
高校生	46名
大学生	3名
大人	4名

地域リーダーで身に付けてほしいこと 講師: CLIP(一般社団法人)

自主的な行動 気づきや発信 新たな出会い



発表者から気づきや出会いを見つける



大学生・社会人の発表(高校生時の経験や現在の活動について)



6グループに分かれて発表者と対話

- ・何を意識して地域リーダーに参加するか
- ・人と関わる中で何に幸せを感じるか
- ・いつから今の選択を決めたのか



第2回目

発信力UP！自身が持てる発声と伝え方

9月12日(水) 16:30~18:30 就業改善センター 3階研修室

参加者26名

高校生 24名
大人 2名

講座のねらい

①声の出し方 ②話し方 ③話の構成 ついて学ぶ



声の特徴を分析して、相手と話す時のポイントを身に付ける



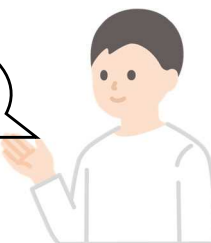
いくつかの話し方の「型」がある

研究テーマ:社会言語学

問いかけの際に現れる発話頭の「ハ」の役割を解明する



好きな食べ物は何？

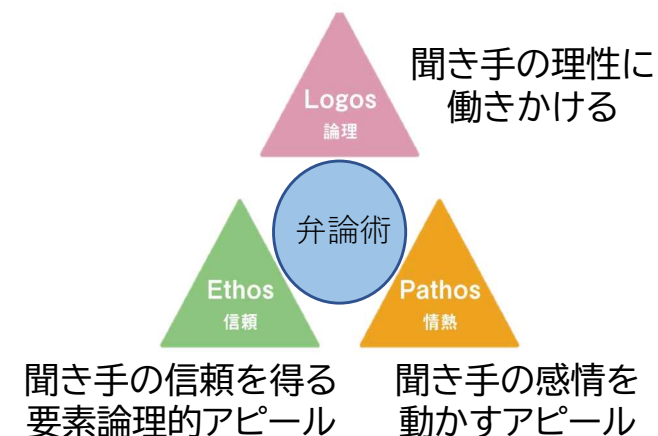


はーりんごです



説得の三原則・・・

人を説得し動かすための要素



講師:宮本 淳子 氏

(常葉大学短期大学部日本語日本文学科准教授)

第3回目

トーク・フオークダンス 御前崎市とのコラボ



10月19日(日) 14:00~16:00 榛原高校 講堂

ポイント

- ①対話の手法を学ぶ ②自分の思いや考えを伝える、聴く



相手がなかなか言葉が出なくても待つ



ゆっくりとしたスピードで話す



答えを言おうとしない

参加者37名

高校生 19名
大学生 2名
大人 16名

高校生運営スタッフが テーマを考案



お題



- ・ 大事なものが壊れた時はどうする
- ・ 最後の晩餐で食べたいものは何か
- ・ 人生で一番輝いていた瞬間は
- ・ ゆずれないもの、こだわることは何か
- ・ 地元の良いところ、好きな場所は
- ・ 牧之原市は今後どうなっていくか

第4回目

ファシリテーション研修

11月19日(木) 16:30~18:30 相良庁舎 3階会議室

“facilitate” = 「促進する、促す、容易にする」

参加者19名

高校生 15名
大人 4名



研修のねらい

- ・話し合いの場を円滑に進めるスキルを学ぶ
- ・自分の考えを言葉にして伝える力を身に付ける

講師:土肥 潤也 氏

(NPO法人わかもののまち 代表理事)



自分から発信、表現する



言わないとチャンスは巡ってこない



自分に軸があることが大切



もし、市長になったら？

聞いている人は記者になって質問!?



- ・「牧之原市の日」という祝日をつくる
- ・子どもと大人の交流の場をつくる
- ・子どもでもデマンドタクシーを利用できるようにする
- ・海や緑が豊かなまちにする(お茶の生産量日本一に！)



第5回目

対話のスキルUP

12月13日(土) 9:00~11:00 榛原庁舎 4階会議室

目的

- ・グラフィックハーバスティングの描き方を学ぶ
- ・チームビルディングの質を高める

参加者11名

高校生 8名
大学生 3名



① アイスブレイク

(me tooバスケット)

楽しいミニゲームを実施し、場の雰囲気をもたせる。



② テーマ1

(10年後の将来を描く)

グラフィックの描き方を学ぶ。
自分の将来設計を描く。



③ テーマ2

(理想のまちを描く)

付箋に「家の周りにほしいもの」、「なぜ必要か」書き出す。
グループで1つの理想とするまちを描く。



- ・ シェアしやすくなる
- ・ 記録として振り返ることができる
- ・ 過去を見返すことでその時の気持ちに戻れる
- ・ ゴールが何だったのか見失わない
- ・ 誰かの大事な言葉が残り、その場の事実だけではなく思いを共有できる



参加者

平成27年度～令和7年度（延べ人数）



10年間で**4,072名**の人が参加
(小学生～大人まで)

そのうち**高校生 1,057名**

OB・OGは、地域や市役所にて活躍中！

参加者の声

参加者の感想～アンケートから抜粋～



【高校生】

- ・自分自身の考えや価値観を様々な立場の人に話すことで、自分の気持ちに整理がつき、自己を見つめ直す良いきっかけになった。
- ・初めての人と話して緊張したけど、自分の気持ちをしっかり言語化することができた。

【大人】

- ・高校生自身の将来像や自分のあるべき姿が、私が思っている以上にしっかりしていた。
- ・若い方がどんなものを欲しいのかが分かってとても興味深かった。



令和8年度 も 開催予定 です
皆様のご参加をお待ちしています！

